

米・露・中の形成する二等辺＜協調＞三角形

(キッシンジャー構想の隆跌)

- 1972年2月上旬 ニクソン米大統領初訪中(キッシンジャー国務長官随行)、対ロシア向けに米国の親中路線演出(毛沢東・周恩来に見せた仮面の笑顔)
- 1972年2月14日 ホワイトハウスにおけるキッシンジャー報告(⇒ニクソン大統領)
「ある歴史的期間において中国人はロシア人より恐ろしい存在になる。あなたの後継大統領があなたほどに賢明であるならば、20年以内にロシア寄りとなって中国と対立することとなる。それまでの向こう15年間は、我々は中国寄りとなりロシアと対立することとなる。我々はこの力の均衡のゲームを全く感情を交えずに演じなければならない。当面は同じ社会主義圏の中国にロシアを賤けさせる必要がある。」
- 冷戦終結後の24年間(クリントン、ブッシュ<子>、オバマ大統領)の米国外交の失敗(「関与政策」等)により、中露両大国を同時に敵に回す事態に。この間、中国は2010年にGDP世界第2位に躍進、海軍増強で南シナ海を内海化。核大国ロシアは、1991年ソ連邦解体後、GDPは韓国を下回る12位に後退、中国の「ジュニアパートナー」的地位に後退。
- 2016年11月17日 キッシンジャー・次期大統領トランプ会談(於トランプタワー、安倍首相会談と同日)、1972年キッシンジャー構想を再提案(45年前の対中露転換アイデア)。事前にマイケル・フリン次期大統領補佐官と協議、スタッフのK・T・マクファーランドをホワイトハウスに副補佐官として派遣。
- トランプ大統領就任で「対中貿易戦争」の仕掛けで米中関係は一段と緊張・悪化、ロシアとはNATOの東漸(加盟30か国中14か国はソ連邦崩壊以降)で対立を深める。中露関係は対米・対NATO対抗上「史上かつてないほどの蜜月関係」を実現(本質は「机上の蜜月、机下では表沙汰に出来ない長靴の蹴りあい」)。

○模式図

